

2025 年度

ケヤキッズベビールームの自己評価

ケヤキッズベビールーム

【自己評価結果の公開について】

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。

この事を踏まえ、ケヤキッズベビールームではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育園の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めて参ります。

1、 保育目標

心身共に健やかな生活を送る中で、周囲に対し感謝の気持ちを持つ

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児
ね ら い	・ 保健的で安全な環境の中で、一人ひとりの子どもが周囲から受け止め、認められながら、自信・安定感・信頼感を感じ将来にわたる心の基盤を築く	安心できる保育者との関係を基盤として自発性、探索意欲が高まり生きていくうえで必要な数多くの行動を身に付けていく	自立心を大切にしながら、子どもの関心や探索意欲を高め、そこで得られた喜びや感動を保育者や子ども同士で共感することで自信に繋げる

2、 1 年間の取り組み状況

・ 食育計画に沿って、意欲的に様々な視点から食事に興味を持てるよう毎月の計画に沿って行ってきました。土に触れることも楽しみながら参加し、なす・ピーマン・きゅうりを植えて毎日水やりをして保育園の行き帰りに成長を楽しむ姿が見られました。

- ・ こどもの育ちや活動を考え、8月に保育環境の見直しを行いました。
- ・ 保護者と園長がこどものことについて話す時間の「アカナコカーナ」は、年3回（6月・9月・1月）実施とし、2~3 か月間隔で行うことによりこどもの育ちをさらにしっかりと保護者へお伝えしました。1月の開催時には1年間のこどもの成長を伝えることや進級に伴う悩み事を聞くことでこどもや保護者の方の不安を解消したり一緒に考える時間としました。その中でのワークショップの時間は保護者

の方のリフレッシュタイムとなるよう企画実施しするだけでなく、こどもたちと保護者の制作物を共同作品として保育室に飾り、こどもたちが様々な作品に囲まれる環境にしました。

- ・7月～11月の交流サロン「プチあんべ」では、小規模園の良さや地域の方々の子育て支援となる交流の場として、「離乳食について」「洋服や靴の選び方」「おむつ外しの悩み解決」などのプチ講座や、身体測定・季節に合わせたお昼寝アートやファミリーフォトなどを行い、最後には保育者が作った手作りの玩具をプレゼントしました。

10月・11月はプチあんべと保活バスツアーを開催し、スマイルルーム・ケヤキキッズ保育園での施設紹介や事前に質問を募集しましたので、みらいキッズの理念を理事長からお伝えさせて頂きました。また質問にお答えする中で、より多くの情報をお伝えしました。

- ・職員の自己評価について年2回の人権擁護チェックリストや保育の質ガイドラインを行い、日頃の保育を振り返る機会として職員も自己の保育を改めて見直しました。

園長とのなかまアカナコカーナでは園全体の課題以外に、保育の悩みなどを相談する時間を設けて、職員とのコミュニケーションの時間を大切にしました。

- ・いつ起こるか分からない災害に備えるために、避難訓練内容の見直しを行い担当者と主任または園長のみが日付・内容を考え、年間避難計画の中にシークレット月を設けて災害等にどのような状況でも職員全員が冷静に命を守る行動ができるか実施しました。

毎回訓練を行う事で反省が出てきて、より訓練の大切さを職員一人ひとりが理解し取り組みました。

- ・こどもの言葉や行動の発達をより理解するため、発達に関する研修に積極的に参加することや、ケヤキキッズグループの児童発達支援施設アーティストルームに行き、こどもの支援方法等について学びを深めました。

- ・休憩室環境の見直しを行い、ノンコンタクトタイムを確保することで保育の質の向上に繋がってきました。

- ・保育に対する向き合い方や考え方を話す、職員とのコミュニケーションの時間として「なかまアカナコカーナ」を実施しました。自己評価の振り返りの際以外にも行う事で保育者との時間を大切にしました。

- ・毎月実施している安全チェックリストを、5施設でのサミット会議を通して、見直しを行いました。

《1年を振り返って》

今年度は昨年に続き、保育者が個々に学びを深める年となりました。児童発達支援士の取得や外部研修にも多く参加し、保育者の得た知識を共有し考えながら、園での課題等にどのように対応するか保育者同士が自然と保育について話す場面も多く見受けられ、保育の質の向上にもつながったように感じました。

保育環境見直しでは新たにロッカー設置を行い、限られた環境の中でどのように保育を進めていくのかを改めて考え、こどもたちがより安心して園生活を送れるように環境設定を行いました。保育者にとっても保育の質の向上につながるよう休憩室を見直しノンコンタクトタイムを確保できるようにして、日頃から職員とのコミュニケーションを取る場所となりました。来年度もこどもたちの心のよりどころとなるように、保育を行う上で愛着関係の形成・異年齢保育を大切に行っていきたいです。

